

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 20 年 7 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 20 年 4 月～6 月期の実績および平成 20 年 7 月～9 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業＋諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業＋食品業部会	30 社	17 社	56.7%
水産業部会	30 社	21 社	70.0%
機械工業部会	30 社	21 社	70.0%
建設業部会	30 社	24 社	80.0%
観光・サービス業＋諸業部会	30 社	23 社	76.7%
合 計	150 社	106 件	70.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概況

－業況は横ばい次期好転見込み－

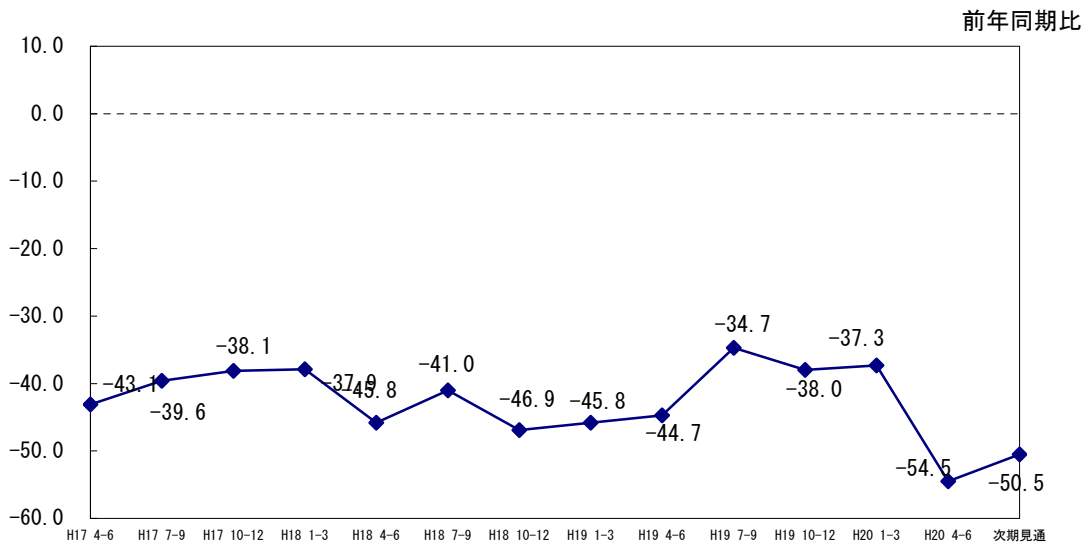
1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成20年4月～6月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では△53.8**と前回調査時の△37.3より**16.5ポイントのマイナス**となりました。業況指数の悪化が進み、市内経済を取り巻く経営環境は大変厳しい状況にあることが再確認されます。

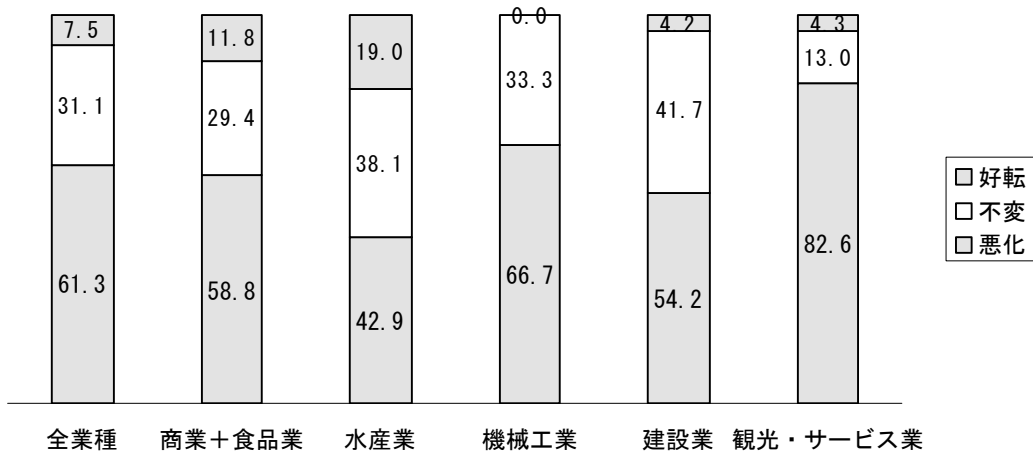
部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前期△38.1→今期△47.1]、水産業[前期△26.3→今期△23.8]、機械工業[前期△33.3→今期△66.7]、建設業[前期△31.3→今期△50.0]、観光・サービス・諸業[前期△55.0→今期△78.3]となりました。経済景気に左右される機械工業、観光・サービス・諸業が大幅に悪化、建設業の景気の先行きも不透明で業況は厳しくなっています。商業食品業については市内中心商店街の疲弊化と物価上昇に伴う消費者マインドの低下が影響し業況悪化が見受けられます。

来期(平成20年7月～9月)については、全体では今期と比べて**業況判断DIが3.8ポイント改善**するとの予測となっているが、業況の悪化状況は変わらないとの見方ができています。どの業種も大幅な改善は見込めない状況です。

業況推移 (全業種平均D・I)



今期の業況(前年同期比)



経営上の問題点としては、売上の減少、燃料・石油製品の高騰を筆頭に**仕入れ単価や人件費以外の諸経費の増加**を訴える声がさらに多く寄せられてきています。また、商店街の疲弊化はさらにひどくなってきており、お盆商戦を含む次期見通しも悪化見込みの予想であり、非常に厳しい状態を強いられています。

設備投資については、前期同様、依然慎重な動きが続いています。

■部会別の動向

【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 47.1$ （前期 $\Delta 38.1$ 、来期見通し $\Delta 70.6$ ）〕

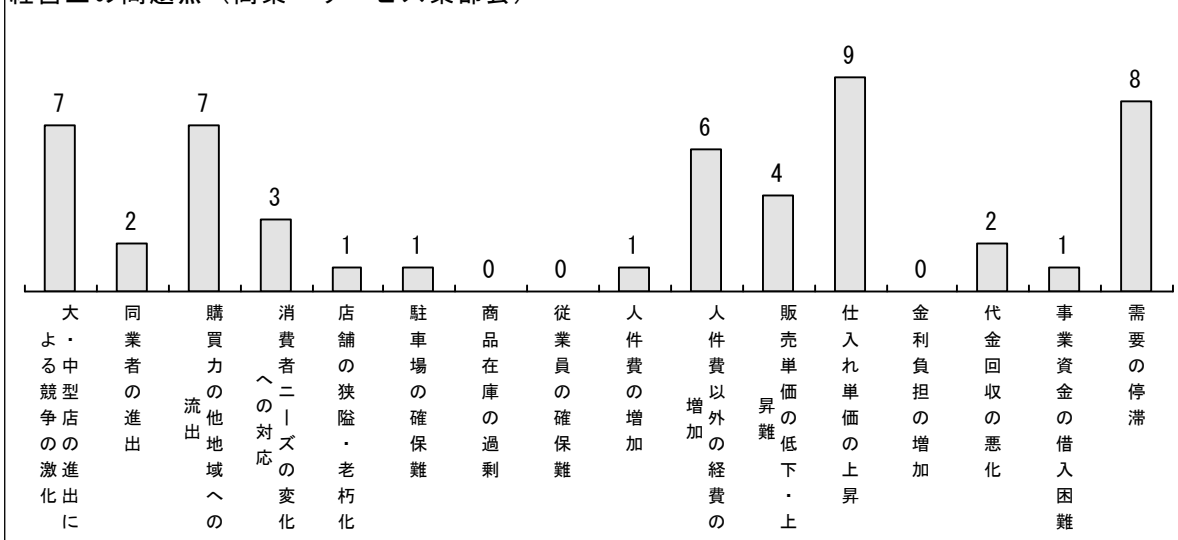
業況DI値（前年同期比）は、5期連続で大幅なマイナス値となり、依然厳しい状況で推移しています。春物を中心として売上の回復が期待されましたが、前回予想を下回る結果となっています。次期の見通しは23.5ポイント悪化すると予想されています。

経営上の問題点としては「仕入れ単価の上昇」「需要の停滞」を訴える声が多い。

《業界の問題点等》

- ・小売業全般に中心商店街の空洞化によって専門店の減少に歯止めがなく、大型店・ショッピングモールへの顧客の流出や、駐車場（お買い物用で無料）が少ない等の原因が考えられる。特に若年層の流出が著しい。（小売）
- ・問題点はいつも書いている事と同じ。出来ることなら消費者の調査を行って欲しい。例えば、①市内のどこに買い物に行くのか？②他地域への購買力の流出先は札幌？旭川？一体どこなのか？③消費者のニーズは一体何なのか？はたまた店頭買いではなく、ネット等通販なのか？…等々、いろいろ聞きたい事がいっぱいある！！（小売）
- ・同業者が廃業し、新規参入がないのは紋別に購買力がないのだろう。商店街の活性化がひつようではないだろうか？（小売）
- ・タスポ導入による売上の減少（小売）

経営上の問題点（商業・サービス業部会）



【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 23.8$ （前期 $\Delta 26.3$ 、来期見通し $\Delta 28.6$ ）〕

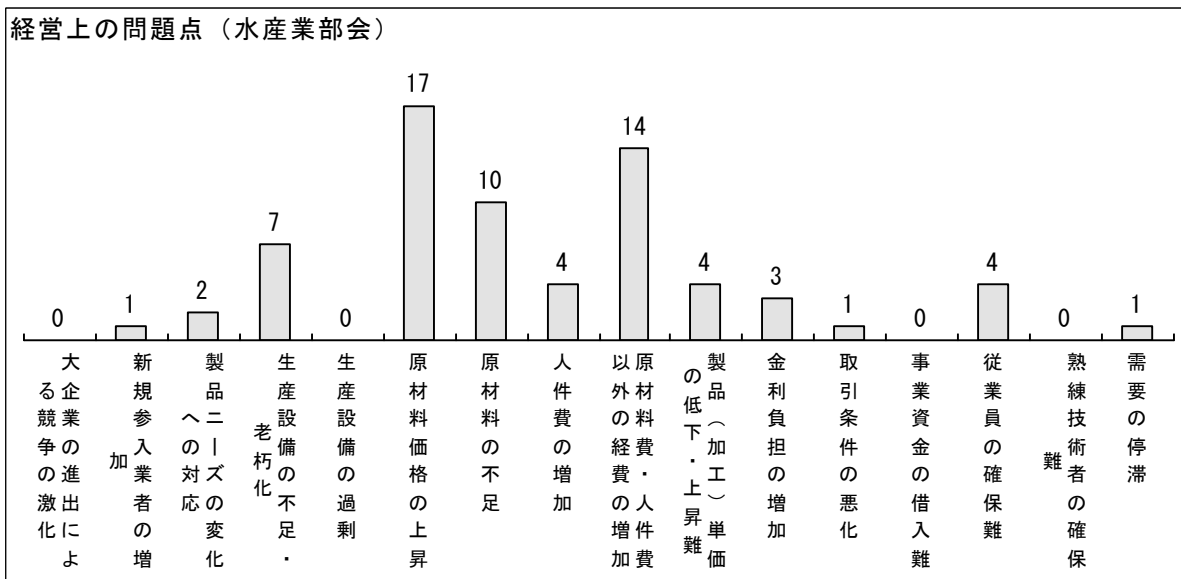
業況判断DI値（前年同期比）は前期よりも若干回復したように見えますが、最盛期をむかえる来期見通しについては $\Delta 28.6$ ポイントとなっており、原油高の影響による漁船燃料の重油のコスト増と不安定な収穫とのバランスがわからず油代をかけてまで漁に出て採算割れするくらいなら漁に出ない方がましとの声も聞かれた。また全国的な一斉休業も紋別市内の漁業者は実施しております。

経営上の問題点としては「原材料価格の上昇」「原材料費・人件費以外の経費の増加」「原材料の不足」を訴える声が多い。

《業界の問題点等》

- ・原材料、油等全ての仕入価格が上昇しているが、商品へ価格転嫁出来ず収益を圧迫している。（水産加工業）

- ・産業廃棄物の経費負担増。(水産加工業)
- ・製品の製造価格の安定化が極めて難しくなった。又、見通しが立たない。(水産加工業)
- ・石油の値上がりを何とかしてもらいたいものである。世界的問題であるが、国、地方ももう少し我々も声を上げるべきではないでしょうか？(水産加工業)
- ・原油の値上げにより製造経費が限界を超えている。又、原料の高騰で採算割れになっている。(水産加工業)



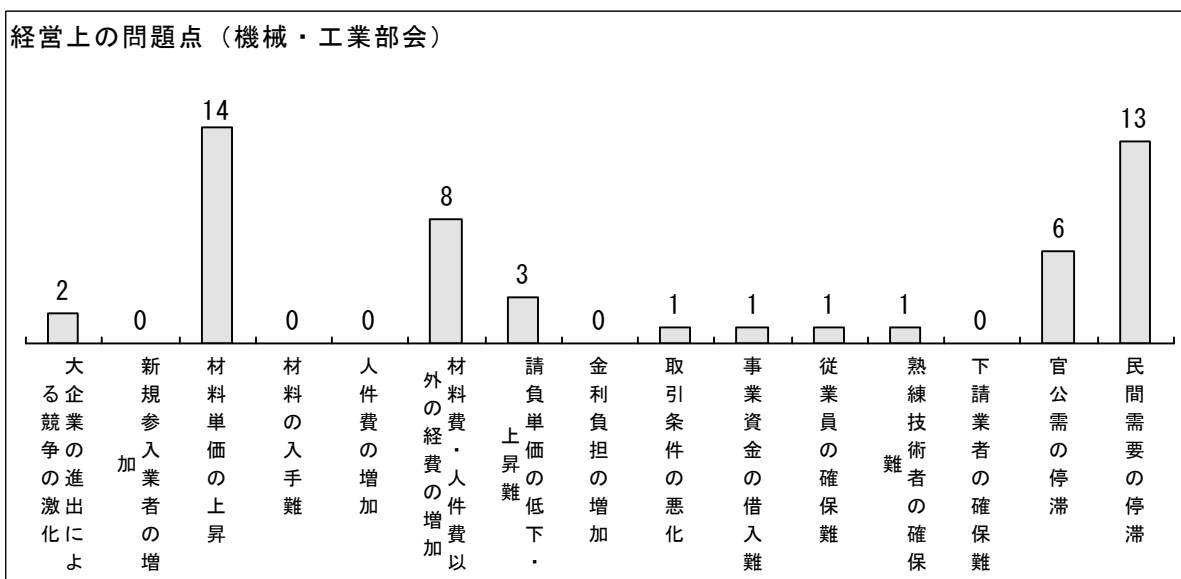
【機械・工業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）△66.7（前期△33.3、来期見通し△61.9）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前期比で33.4ポイントの大幅な悪化だった。次期見通しの業況判断も繁忙期を迎える夏場でありながら、業況悪化が継続する見通しとなっています。

経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「民間需要の停滞」を訴える声が多い。

《業界の問題点等》

- ・前期と変わらないが、少し悪い方向になっている。(機械修理)
- ・材料（燃料）の単価の上昇（機械）
- ・売上げが見込めない。今なるべく借入金を増やしたくない。(車両販売)



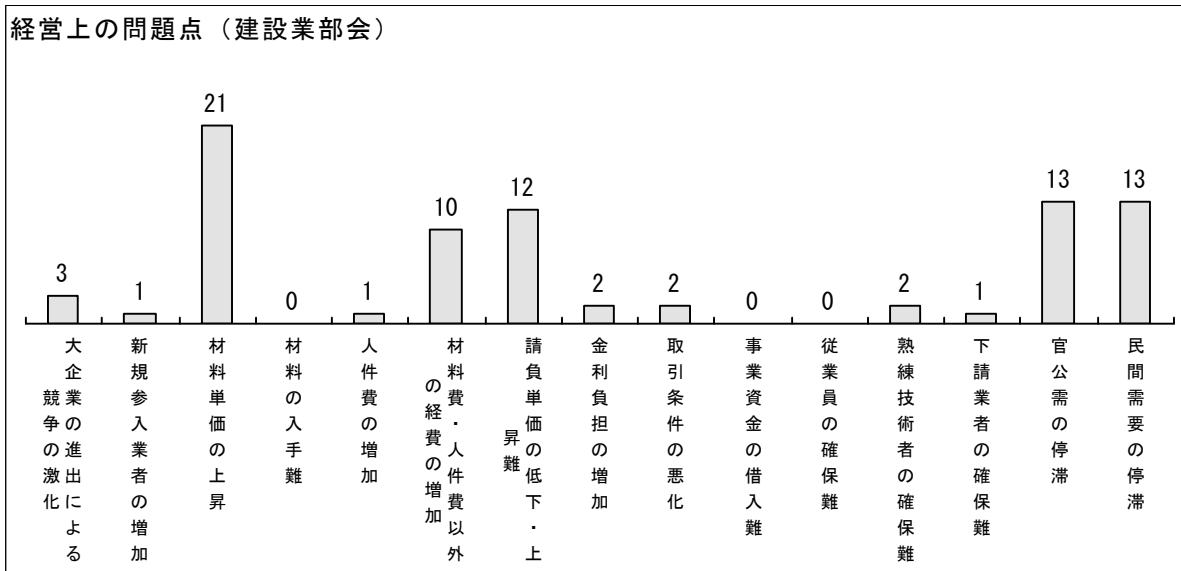
【建設業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）△50.0（前期△31.3、来期見通し△33.3）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前期よりも悪化している状況がうかがえます。これから本格的な繁忙期に入る予定ですが公共工事の減少、新築着工の少なさ等、大きな回復は見込めず厳しい状況です。

経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「民間需要の停滞」「官公需の停滞」「請負単価の低下・上昇難」を訴える声が多い。

《業界の問題点等》

- ・①確認申請許可が予想以上に掛かり、着工の遅れで影響大。②建設諸資材、燃料費の高騰。(建設)
- ・①確認申請が長すぎ。②原油高により8月から一部材料の値上げ等(電気工事)



【観光・サービス・諸業部会】 [業況判断DI値(前年同期比) $\Delta 78.3$ (前期 $\Delta 55.0$ 、来期見通し $\Delta 60.9$)]

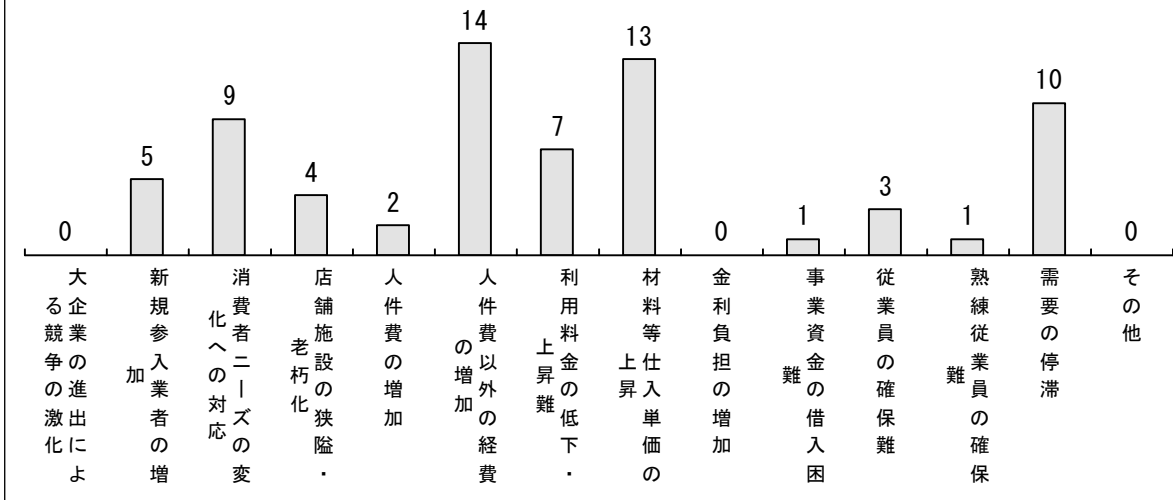
業況判断DI値(前年同期比)は前期よりも大幅悪化。観光シーズンになったにもかかわらず先行き見通しは悪い状態である。市内経済の低迷による客足の遠のき、パチンコ業が夜遅くまで経営していることが飲食店への客足に影響しているとの声をよく聞きます。

経営上の問題点としては、「人件費以外の経費の増加」「材料等仕入れ単価の上昇」「需要の停滞」を訴える声が多い。

《業界の問題点等》

- ・市の人口が減少していても都市から来てくれるようなイベントを考えて欲しい。(飲食店)
- ・新店舗に対しての家賃支援?(飲食業)
- ・①仕入単価の上昇 ②冬場の灯油単価の値上がり。(飲食業)
- ・希望なし。何をやってもダメ。(飲食業)
- ・生活物資の高騰による生活不安から、買い控え、消費の減少。(サービス業)
- ・今や不況のどん底時代です。原油の高騰、物価の上昇…我々には打つ手段がありません。国が腰を上げ、産油国との折衝は出来ないのですか?国会の先生、国民の為に力を貸して下さい。(運送業)
- ・石油の値上がりが一番(ボイラーの重油の値が大変です)。材料の高騰。(クリーニング業)
- ・理容関係業者は美容へのお客の流れ(ニーズの変化)を止める事が出来ず、大変苦しくなっている。料金の値上げで対応しようとしているが追いつかない。あとは細々と年金をもらいながら…(理容業)
- ・人口の減少、景気(売上)低迷、特に食材の高騰など多数。(飲食業)
- ・6月は当店の稼ぎ月ですが、ガソリン高騰により主力となる札幌・旭川方面より車でのお客様激減。(飲食業)

経営上の問題点（観光・サービス業部会）

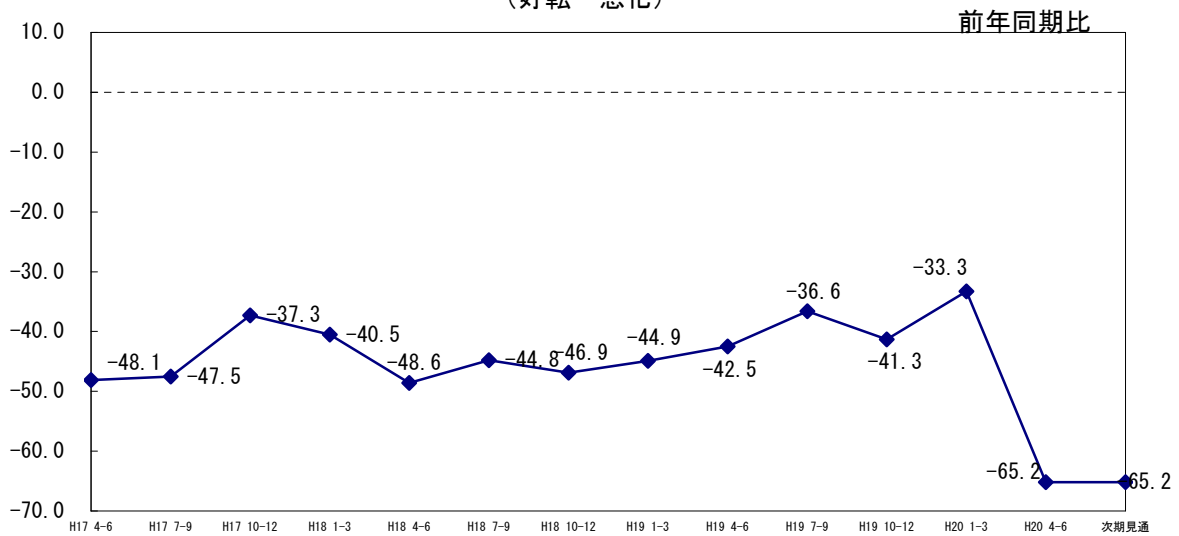


2. 今期の動向

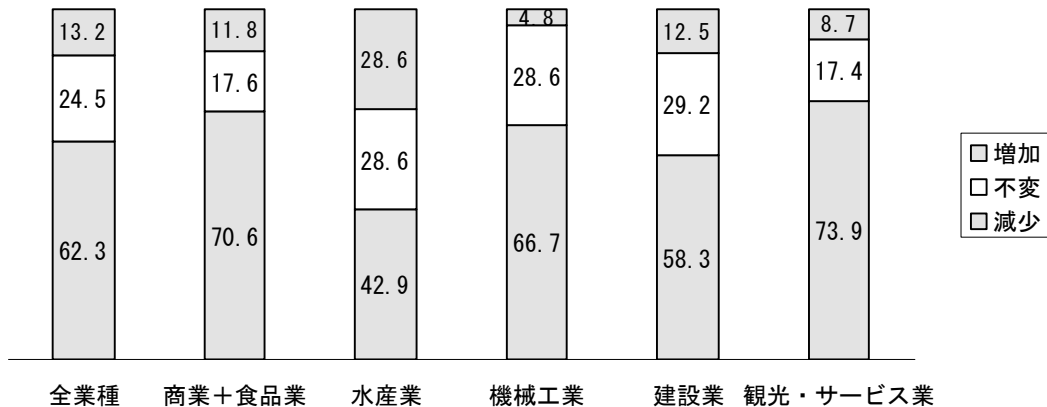
(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成19年4月～6月期の水準と比較した今期の売上高）

売上状況（全業種平均D・I）
（好転－悪化）



今期の売上高・生産高（前年同期比）

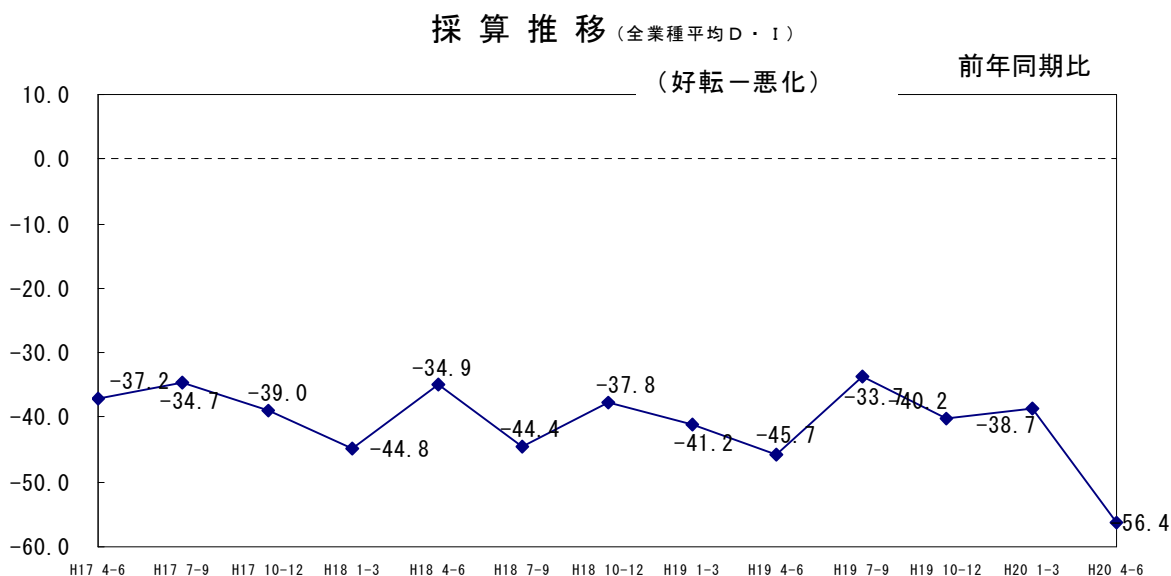


全業種平均でDI値 $\Delta 53.8$ 〔前回調査時（平成20年1～3月期 $\Delta 33.3$ ）より20.5ポイントマイナス幅を拡大〕 来期は3.8ポイント回復の見込み。

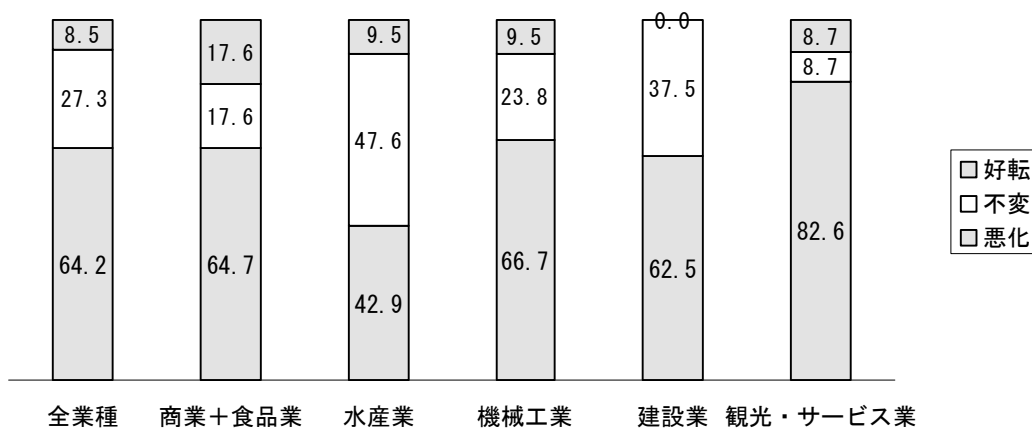
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta 20.0 \rightarrow \Delta 47.1$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 21.1 \rightarrow \Delta 23.8$ 〕
 機械工業〔前回 $\Delta 38.9 \rightarrow \Delta 66.7$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 33.3 \rightarrow \Delta 50.0$ 〕
 観光・サービス業〔前回 $\Delta 55.0 \rightarrow \Delta 78.3$ 〕

(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成19年4月～6月期の水準と比較した今期の採算水準）



今期の採算（前年同期比）

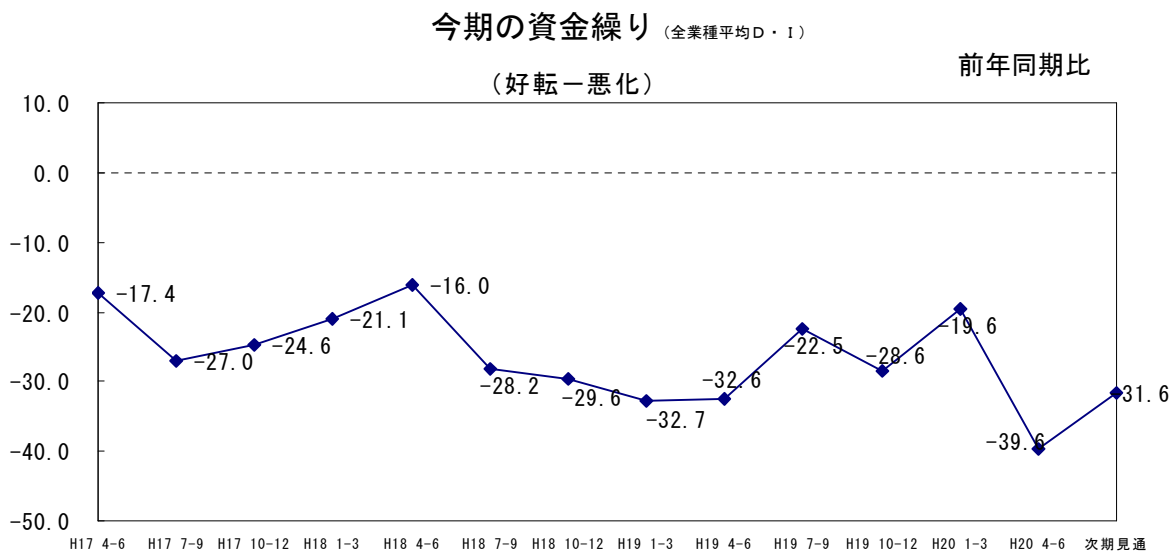


全業種平均でDI値 $\Delta 55.7$ 〔前回調査時（平成20年1～3月期 $\Delta 38.7$ ）より17.0ポイントマイナス幅を拡大〕

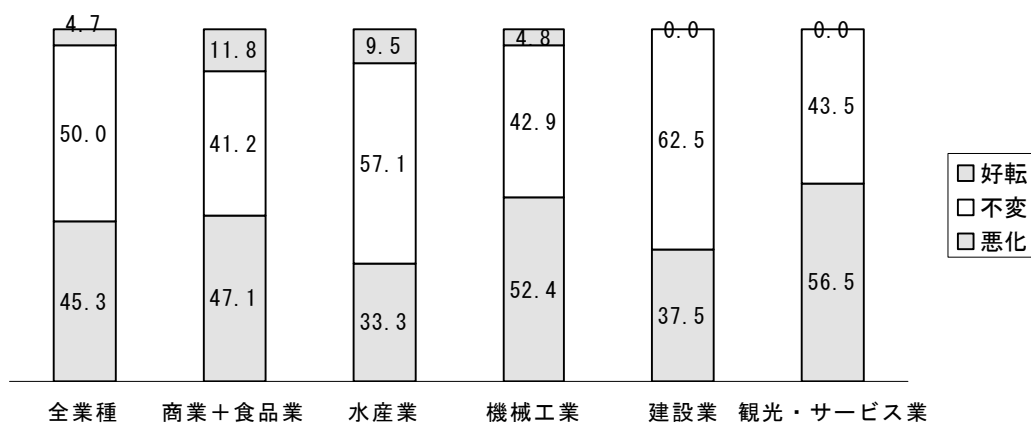
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta 25.0 \rightarrow \Delta 47.1$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 31.6 \rightarrow \Delta 33.3$ 〕
 機械工業〔前回 $\Delta 44.4 \rightarrow \Delta 57.1$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 50.0 \rightarrow \Delta 62.5$ 〕
 観光・サービス業〔前回 $\Delta 45.0 \rightarrow \Delta 73.9$ 〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 19 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）



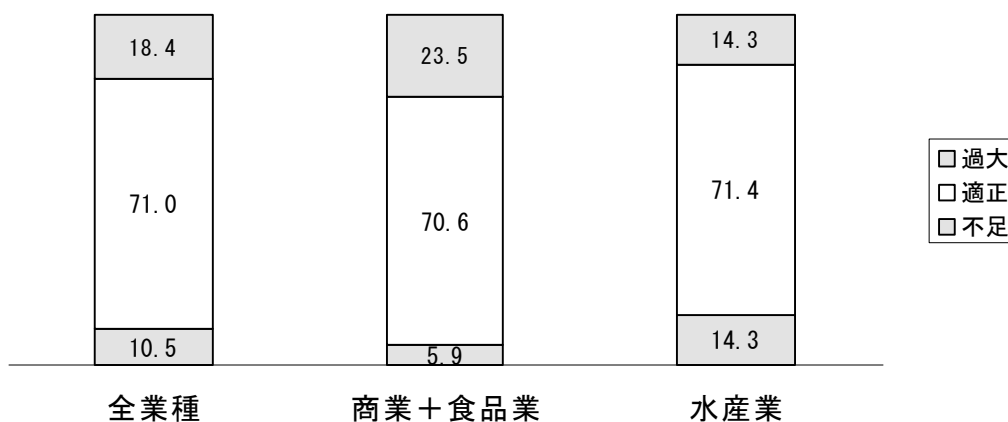
全業種平均で DI 値△40.6〔前回調査時（平成 20 年 1～3 月期△19.6）より 21.0 ポイントマイナス幅を拡大〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回△30.0→△35.3〕、水産業〔前回△17.4→△23.8〕
 機械工業〔前回△27.8→△47.6〕、建設業〔前回△28.6→△37.5〕
 観光・サービス業〔前回△42.1→△56.5〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 19 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



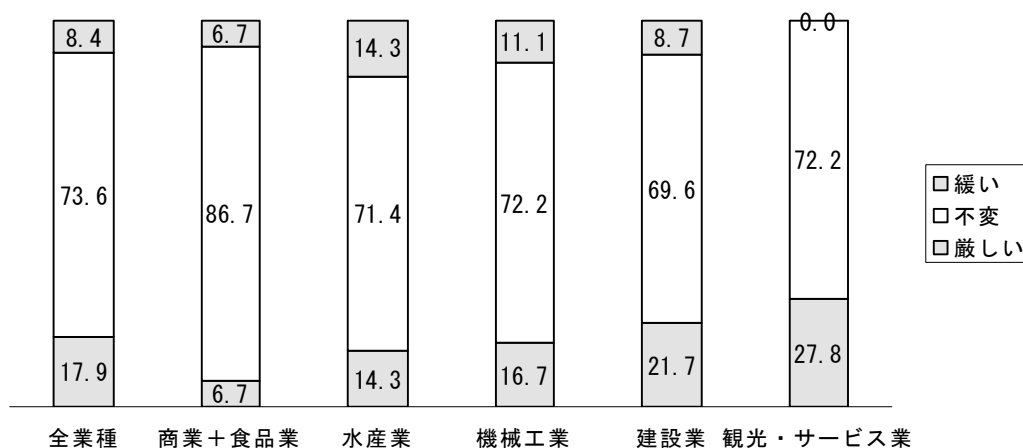
全業種平均で DI 値+7.9〔前回調査時（平成 20 年 1～3 月期△5.1）より 13.0 ポイント在庫増加〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回 10.0→17.6〕、水産業〔前回△21.1→0.0〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 19 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

今期の金融機関の貸出姿勢

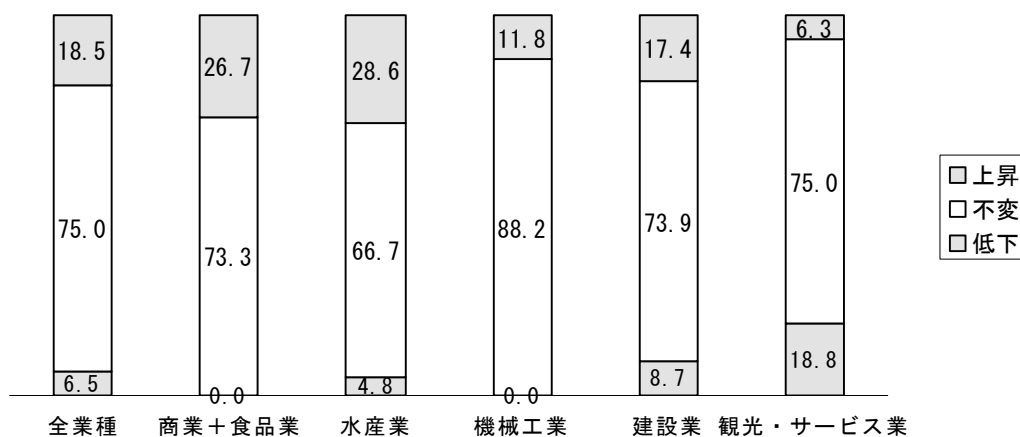


全業種平均で△9.5 ポイント。商業食品業 0.0 水産業 0.0 機械工業△5.6 建設業△13.0 観光サービス業△27.8。

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成 19 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

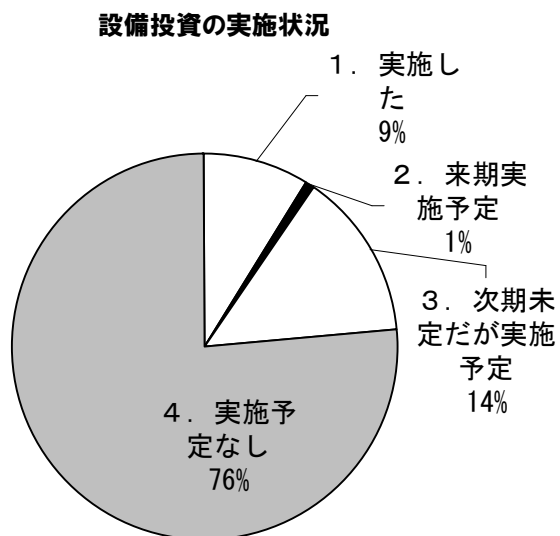
今期の借入金の金利水準



全業種平均で+12.0ポイント。商業食品業 26.7 水産業 23.8 機械工業 11.8 建設業 8.7 観光サービス業△12.5。

(7) 設備投資の実施状況

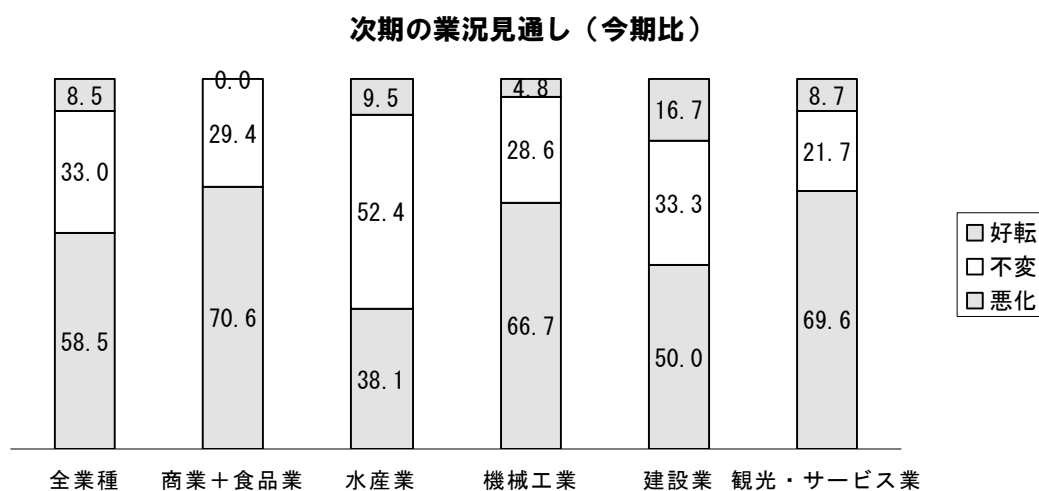
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

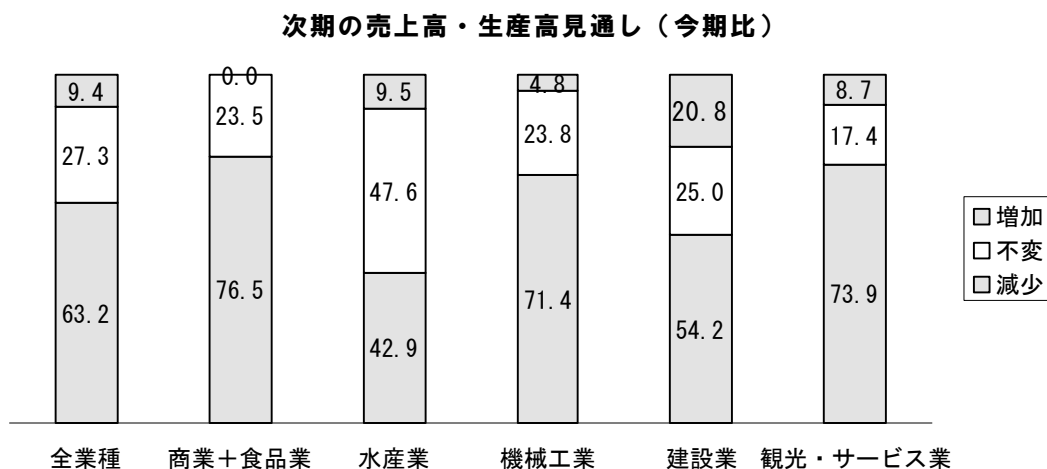
【今期比】（平成 20 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値 $\Delta 50.0$ [今期の業況（前年同期比 $\Delta 53.8$ ）より 3.8 ポイント回復の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 20 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

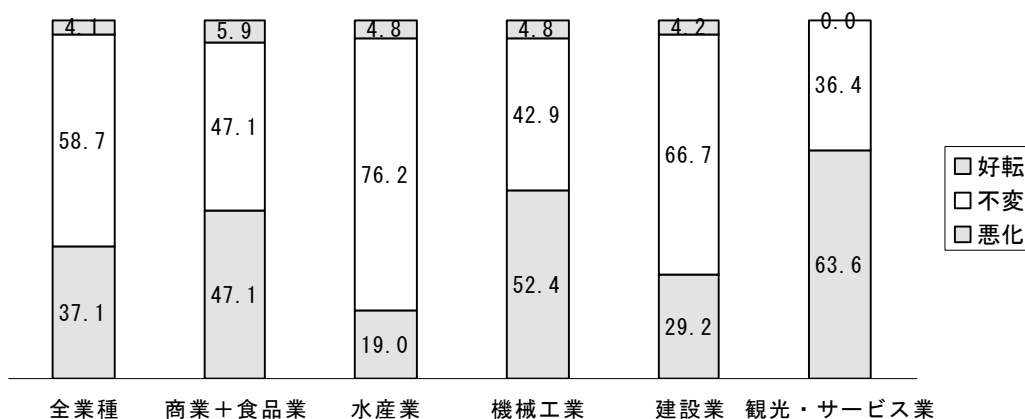


全業種平均 DI 値 $\Delta 53.8$ [今期の売上高・生産高（前年同期比 $\Delta 49.1$ ）より 4.7 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 20 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 $\Delta 33.0$ [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 40.6$ ）より 7.6 ポイント改善の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	$\Delta 53.8$	$\Delta 47.1$	$\Delta 23.8$	$\Delta 66.7$	$\Delta 50.0$	$\Delta 78.3$
	来期見通し	$\Delta 50.0$	$\Delta 70.6$	$\Delta 28.6$	$\Delta 61.9$	$\Delta 33.3$	$\Delta 60.9$
売上 D・I	今期実績	$\Delta 49.1$	$\Delta 58.8$	$\Delta 14.3$	$\Delta 61.9$	$\Delta 45.8$	$\Delta 65.2$
	来期見通し	$\Delta 53.8$	$\Delta 76.5$	$\Delta 33.3$	$\Delta 66.7$	$\Delta 33.3$	$\Delta 65.2$
在庫 D・I	今期実績	+7.9	17.6	0.0	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	$\Delta 55.7$	$\Delta 47.1$	$\Delta 33.3$	$\Delta 57.1$	$\Delta 62.5$	$\Delta 73.9$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	$\Delta 40.6$	$\Delta 35.3$	$\Delta 23.8$	$\Delta 47.6$	$\Delta 37.5$	$\Delta 56.5$
	来期見通し	$\Delta 33.0$	$\Delta 41.2$	$\Delta 14.3$	$\Delta 47.6$	$\Delta 25.0$	$\Delta 63.6$
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	$\Delta 9.5$	0.0	0.0	$\Delta 5.6$	$\Delta 13.0$	$\Delta 27.8$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	12.0	26.7	23.8	11.8	8.7	$\Delta 12.5$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。